

神崎の魅力を市外へ発信



ビーチハウス神崎 オーナー
ボーエン・マリー さん

神崎の魅力にひかれ、舞鶴へ移住。
地域活性化につながる事がしたい、住んでいる地域の人に喜んでもらえる事がしたいとの思いから、神崎地区に車で訪れる人向けに駐車場の貸し出しやゲストハウスを展開している。
移住者ならではの視点で、今後の神崎について考えているボーエンさんに話を伺った。



貸し出ししているゲストハウスの内部



神崎ゲストハウス&車の旅の看板

日本との関わり

日本人の母とオーストラリア人の父の間に生まれたボーエンさん。北海道で幼少期を過ごし、その後、小学生以降は父の祖国であるオーストラリアで過ごした。日本に再び来るようになったきっかけはオーストラリアに住んでいる日本人夫婦との出会い。その夫婦が日本に帰省するというので、興味本位で一緒に訪れたところ、日本の自然が肌に合ったそう。7年前にその夫婦が所有している福知山市夜久野町の土地をボーエンさんが購入し、1棟貸しのゲストハウスを始め、幼い頃過ごした日本で再び人生を歩むことになった。

舞鶴の海が好き

舞鶴への移住に心が動いたのは、神崎の海に魅せられたか

ら。空き家バンク制度を活用し「波が穏やかで、鳥のさえずりが聞こえる落ち着いた雰囲気がある」と、神崎地区に移住を決めた。「福知山には山はあるけれど、海がありません。舞鶴には素晴らしい海があり、自然に囲まれたのでかストレスが発散できるすてきな場所です。オーストラリアでは、このような山・海に囲まれ、のびのびとした生活・子育てできることはとても価値のあること。舞鶴に住む人はその良さに気付いていないのかもしれないです」と語る。私たちが過ごす日常は、ボーエンさんからすると新鮮で、違った見え方をしている。

魅力を発信

この神崎の魅力を舞鶴だけでなく、市外で自然を求めている人にも発信したいと考え、車で旅をしている人向けに駐車場の貸し出しや神崎ゲストハウスを展開している。「今はゲストハウスが人気で、都会から自然や癒やしを求め、のんびりできる田舎のゲストハウスに来る人が多いです」と話す。

また「暖かくなる時期には、さまざまなことにチャレンジしたいと思っています。オートキャンプ場やビーチハウスのレンタル、カヤックやサーフボード、自転車のレンタルなど、やりたいうことを挙げたら切りがありません。神崎をどうしたらもっと多くの人に利用してもらえるか、若者が住みたい、帰ってきたいと思える所を考えるかを考えています。他にも、神崎浜をサップ(※)が楽しめる場所にしたいと思っています。その活動資金をクラウドファンディングで募っています。穏やかな海で非日常を体感してストレスを解消してもらいたいです」と未来の構想を笑顔で話す。

未来の舞鶴を見つめ、新たな試みを模索しているボーエンさんの瞳にはたくさん夢が映っている。

※ボードの上に立ち、パドルをこぎながら海などの水面を進むオートタースポーツ。ヨガや釣りなどさまざまなアクティビティも楽しめる

ドクターTのひとりごと その1205

舞鶴市10大ニュース

年頭に当たり、令和4年舞鶴市10大ニュースを選びました。(順不同)
①クーポンや給付金など、新型コロナウイルス感染症や原油価格・物価高騰に対する経済対策を実施②「みなとオアシス京都舞鶴うみとびら」登録。西まちなかエリアと一体となった賑わい創出③スマホアプリ活用による新たな子育て支援サービス「まいココ」の運用を開始④府内で京都市に次いで「配偶者暴力相談支援センター」を設置。DV被害者支援を拡充⑤IT関連会社の舞鶴支社がU・I・Jターナーを雇用。舞鶴からITの世界で活躍できる人材育成が進展⑥「夏のDigital田甲子園」で「万願寺甘とうスマート栽培」がアイデア部門ベスト4を受賞⑦Parki PFI制度を活用した民間事業者による赤れんがパークの運営が始まり、賑わいが創出⑧図書館基本計画を策定。図書館システムの再編、中央図書館の整備、図書館サービスの充実⑨舞鶴市域の「由良川緊急治水対策」が完成。安全・安心のまちづくり

向け防災減災対策の充実強化⑩市内20消防団をひとつの消防団に改編する一団制を導入し、組織力強化に向けた準備が進む

令和4年は、長引く新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中、感染対策を十分に講じながら地域活動やイベントを再開する動きもあり、少しずつコロナ前の賑わいを取り戻してきました。

コロナ禍で地方分散型社会を実現することが急務との認識が広がっています。本市には、豊かな自然、連綿と引き継がれてきた歴史・文化の中で「お互いさま」の精神が根付いた地域コミュニティが残り、医療、教育、子育て環境などの基盤や大都市と適切な距離を保ちながらつながることができる高速交通ネットワークが整備された地方分散型のモデル都市になれるまちです。

本年は市制施行80年を迎えます。地域が活性化し、将来にわたり持続可能なまちづくりを進めるため、地域が有する機能、魅力を磨き上げ、多様な主体との連携を生かすことが大変重要であると思っています。



今月のツルいんすた

「#ツルい舞鶴」「#myツルい」のタグが付いたインスタグラムの投稿の中から、シティブランディングプロジェクト(※)メンバーが投稿をピックアップ! 投稿者(写真左上がアカウント名)からのコメントと併せて紹介します。舞鶴の良いところを再発見しましょう。



うまいづる
まもなく舞鶴を旅立つコッペ好きの私のために、こんなに集まってくれたのか…涙
大好きな舞鶴に絶対帰ってくるで!!



日常
5年前まで所属していた舞鶴市民吹奏楽団の定期演奏会を聴きに行きました。大切な音楽仲間との久々の再会のあとに見た建部山の夕焼けです。



舞鶴自然文化園
毎年、紫陽花の時期にはお邪魔しますが、今年は紅葉園を開園されると知り早速伺いました。すてきな紅葉園、ぜひ毎年開園していただきたいです。



今月の表紙

夜景写真によくある「回転する星」を再現できないかとチャレンジしてみました。冬は寒いので外に出て空を眺めるという機会はなかなか無いかもしれませんが、晴れた日の夜は空気が澄んで小さな星たちも大空に瞬いています。舞鶴の星空の美しさを改めて感じてもらうとうれしいです。

※「舞鶴をまちの内側から元気にしたい」「市民の皆さんにもつとまちへの誇りや愛着を持ってほしい」という思いで令和2年度から始まった事業。市内事業者、教員、市の若手職員などで結成し舞鶴の魅力発信に取り組んでいる